

■第3回 国立駅周辺まちづくり会議 記録（要旨）

日 時：平成23年10月13日（木）午後6時半～午後8時半

場 所：国立市役所 地下1階 食堂

出席者（敬称略）：

会長	篠原 修	東京大学名誉教授／GS デザイン会議代表
委員	鈴木直文	一橋大学大学院社会学研究科専任講師
	新井和雄	公募市民
	笠井 恵	公募市民
	関 堅	公募市民
	藤本 剛	公募市民
	内山健治	国立市商工会会長
	甲斐恒人	立川バス株式会社運輸部次長兼計画課長
	窪田 洋	京王電鉄バス株式会社営業部営業第一担当課長
	原田弘司	社団法人東京乗用旅客自動車協会広報委員会副委員長 ／銀星交通有限会社専務取締役

オブザーバー	青木 正	東京都 東京都北多摩北部建設事務所管理課長
	保科隆治	国立市商業協同組合理事長

国立市長 佐藤一夫

欠席者（敬称略）：

	中井 祐	東京大学大学院工学系研究科教授
	羽藤英二	東京大学大学院工学系研究科准教授

事務局：国立市

	都市振興部長	小澤宏康
	国立駅周辺まちづくり推進室	室長 門倉俊明
	同	係長 中島広幸
	同	主任 松平忠彦
	同	主事 和田 賢

傍聴者： 約35名

【配布資料】

資料1：次第

資料2：委員名簿

資料3-1：交通検討部会の昨年度の成果

資料3-2：まち育て検討部会の昨年度の成果

資料4：今年度の検討内容と課題

【内容】

1. 開 会
2. 市長挨拶
3. 委員等紹介
4. 平成22年度検討部会の活動報告（交通検討部会、まち育て検討部会）
5. 今後のまちづくり会議の進め方
 - ①まちづくりの考え方
 - ②検討内容
 - ③今後のスケジュール
6. その他

【議事要旨】

■市長挨拶

市長：「市民自由広場構想」ということで大学通りを活用していきたい。短いスケジュール、JRの事業が竣工するというタイムリミットがある中で、的確な検討を進めて頂きたい。旧駅舎についてはJRと用地確保について協議して復原したい。北口駅前広場では痛ましい事故があったこともあり、広場整備を進めていく。南口駅前広場についてはロータリー機能を残していく考えである。

■委員紹介

※変更になった委員（内山委員）、まちづくり会議に初めて参加した委員（鈴木委員）を紹介。

■昨年度の成果について資料説明

※資料3-1及び3-2に沿って説明。

■質問・意見交換

委員：私が受け取った委任状は前市長の名前だが、このまま継続して委員として関与してよいのか。南口駅前広場のロータリー機能を残すという方針が佐藤市長から示されているという点は評価したい。交通部会の部会員として、方針を踏まえ、具体的な案を早い段階でお示ししたい。

会長：ロータリー機能を残すという考え方については、これから検討する話だと思う。

委員：交通部会では、シミュレーションにより検証していくことに加え、もう一つ、実際に現場で車を止めて実験していこうという話があった。

会長：この資料には出ていないということか。資料を修正して欲しい。

委員：過去の協議会などでの検討内容との重複が多い。まちづくり会議は基本計画を基本設計にする場であり、部会では、基本計画に沿って、内容を進める方向で積み上げて欲しい。高架化に伴って進んでいる3・4・10号線、西1条線などについて、検討を進めて欲しい。また、高架下についてJRではある程度のプランが出来ている模様。時間切れにならないよう、どのようなものがどこに入るのか、急いで検討して欲しいと思っている。平成25年度には国体が開催されるが、このときに駅前がこのままでよいのか。高架下事業が終わっている頃であり、「素晴らしい駅」だと思ってもらえるよう、南口駅前広場の検討を先行して進めてもらいたい。

会長：JRの事業が先行して、まちづくりが遅れ気味という認識は持っている。ただし、駅前広場はバス、タクシー、一般乗降の交通の考え次第で変わってくる。皆で議論して決めなければならないので急がなければならないが、将来の駅前広場をどうするかを詰めないで設計には進めない。

■今年度の検討内容と課題について資料説明

※資料4に沿って説明。

■質問・意見交換

会長：資料4の3ページ、平成23年度の交通検討部会の進め方について、基礎資料の収集、交通シミュレーションによる交通計画の検証は何時を目処に進めるのか。コンピューターで計算するのは経費が掛かるが大丈夫か。

事務局：費用については委託の中で実施することになっている。

事務局：交通量調査は早急に始めたい。一般的に10月、11月に交通量が落ち着くので、遅

くとも 11 月に交通量調査を実施し、その結果をもとにシミュレーションを行い、1 月中に示したい。

会長：年明けには交通のあたりが付くようになるということ。一方で、公共交通の再配置についてはどう考えているのか。

事務局：交通事業者さんと具体的な話はさせて頂いていないが、北口、南口について再配置を含めて検討していきたい。今後、協議していきたい。

委員：まち育て部会のミッションは高架下の施設の機能・利用の検討ではあると理解しているが、これまでの部会の検討経緯では、少し広いところから議論をして頂き、「ツアー」を計画するところまで到達している。この成果をハードに落とし込まなければいけないという問題があるが、今年度の検討についての内容はもちろん「検討プロセス」についても配慮して頂きたいと思っている。一方で、「部会」の構成が、このままで良いのかとも思っている。交通部会とまち育て部会でコンセプトが重複するところもある。一方の成果を受けて調整することになると対応し切れないところも出てくる。景観部会も含めて、どのようなプロセスで行うか。部会の再編を含めて考えていかないと計画に結びつかないのではないか。

会長：駅周辺の検討では「どのようなもの、どのような活動をするものが欲しいのか」を議論することが重要である。もう一方については、交通の観点、まち育ての観点、景観の観点からの足し算にはならない。出来るものは一つしかないので、あるタイミングで各部会から出てきたものを合わせて、具体的な絵にしてみることになる。絵が出てくるのは何時ごろになりそうか。先ほど事務局とも話しをしたが、北口については面積、用途も限定されているので、設計は早めに進められると思っている。南口は、プリンスホテル、複合施設、交通機能など複雑なので、そう早くはできないと思う。

事務局：基本計画については精査して進めていかなければならないと思っている。

会長：北口についてはどうか。絵を見せれば、議論がもっと具体的になる。

事務局：ご指摘の方向で進めていきたい。

委員：市長も代わり、3月11日に大震災があり、状況が変わっているということで、我々としてどのような視点で国立のまちづくりに取り組むのか、原点を確認すべき。基本計画に則ることは変わらないと思うが、変わった部分があるのであれば、意識合わせをするべき。

会長：3月11日以降、重要に考えなければならない話があるはずということ。

委員：基本的には基本計画に則って広場づくりをするべきで大きく変える必要はないと思うが、一方で、国立自体が関東大震災の復興を機に作られた街でもあるので、防災の観点で何かしら考えなければならないものがあると思う。

委員：震災の話は同感である。一方で、まちづくりにおいて最も重要なものとして、「高齢化社会への対応」であるが、あまり議論されてこなかったと思う。市域全域を見て考えるべきで、特に谷保地域について考えるべきと思う。

会長：高齢者については、交通部会やまち育て部会で議論されているものがあると思う。

委員：まち育て部会では議論が出ていない訳ではない。ただ、高齢者のためということではなく、多様な人を排除しないということで議論してきた。

委員：最初の検討委員会に参加したときから防災について指摘してきたが、当初は駅舎に太陽電池を設置してもらうなどの提案をしてきた。今回の震災で、帰宅困難者が多く出た状況などを見ると、被災した際には、広場は人がたたずむ場所になると思う。本当に困ったときに最低限必要な機能について、具体的に検討する機会を設けて欲しい。

会長：震災が起きれば、駅前広場には車があふれ、危険地帯になると思う。駅前広場には、ある程度の空地というかスペースが必要ではないかと思う。

委員：高齢者の話はこれまでできてきている。駅前広場は皆の広場という中で、弱者の方々が使いやすいよう、バス・タクシーと自家用車の共存、荷捌き場所の設置などを設置

してきた。高齢者を優先して健常者は遠いところで降りる、自転車も駅近くにも置かないなど。皆が譲り合えることが重要で、凶面もこれまで何度も出してきた。

委員：駅前広場に対して高齢者への配慮がないということではなく、市内全域的な高齢者への考え方が重要だということである。まちづくり会議での議論でもないかもしれないが、関連はすると思う。超高齢化時代に対応するまちづくりなどを検討する会議を立ち上げるなど、厚みをつける議論が必要である。

市長：施設については使う人によっては異なる状況が出てくる。例えば、大学通りについても、元気な人が横断する場合と高齢者が横断する場合では横断時間が異なる。高齢化社会になった時に、プールが必要ではないか、現在の横断歩道はそのまま良いのかなど、新たに検討すべきことという認識は持っている。研究会については、集合住宅に関するプロジェクトを立ち上げているので、そちらからと考えている。

委員：第1回まち育て部会のワールドカフェの後、時間が無い中で「まとめよう」と熱い議論ができ、3月までに具体的な提案が出た。時間があいたが、当時やらなければならないと言っていたことは、早くやらなければならないと思っている。まち育ての検討部会では「市民の皆さんに関心を持ってもらうにはどうしたらよいか」、その為に何かアクションを起こそうというということで、ツアーやベンチやトイレのプロジェクトを提案した。今からやれることで、具体の機能や高架下の利用については、そこから出てくると思う。高架下の話は具体的な議論をしたい。箱を作る、機能を作るのは良いが、重要なのはどのような活動があるのかを一緒に考えることだと思う。

会長：ベンチプロジェクトについては、一般市民の目に触れるようにしないと関心を持ってもらえないということか。

委員：小学生に作ってもらうことで、世代をつなぐことになるのではないかという話だった。作る手間の前に、駅前や大学通りにあるベンチを勝手に表彰しても良いのではないか、ベンチを作るプロジェクトを恒例のイベントにできないかという話もあった。

会長：日向市（宮崎市）では屋台を作ったり、平泉町（岩手県）ではベンチをつくらうとしている。これには、小学校の先生の協力が必要だし、材料を作る人も必要だし、道具の使い方を教える人も必要。財源も必要だが、市は承知しているのか。

事務局：皆さんに提案頂いたプロジェクトでもあり、並行して進めていくものだと思う。予算や実現に向けた課題などもう少し詰める必要と思っている。

会長：市立小学校だと、市長の提案があれば動いてくれるのか。小学校の先生は忙しいので、また、仕事が増えると嫌がる人もいると思う。大変なことであるが良い提案だと思う。小学校が動く親が動くので。

事務局：高校に駅周辺まちづくりへの参画を呼びかけたところ、一部は生徒会を通じてという学校もあったが、難しいという学校もあった。小学生だけでなく、他のところも一緒に取り組みを持っていきたい。

委員：まち育て部会では、小学生、高校生など人を集めなければならないという話だった。しかし、まちづくりを発展させる話と駅周辺の機能やデザインの検討には乖離があり、やり難さがある。これにより話が進まないのが悠長なことをやっていると思われることを懸念している。部会を再編する話も含めて、事務局とも相談したい。

会長：違うように見えても、参加する人が増えて盛り上がってくるとつながってくる。参加する人間が少ないと道筋を作っても上手くいかない。まち育ての取り組みは良いと思う。まちづくりに関する補助金については、GS デザイン会議の補助金もある。平泉の中学校では、GS デザイン会議の補助金を使って家具を作っている。

委員：そのような取り組みは観光協会で解決できる。また、南北の問題はここで考えることではないのではないか。まちづくり会議の議論は駅周辺に限れば良い。話を広げるとまとまらなくなる。佐藤市長は就任早々、「ロータリー機能を残したい」という方針を打ち出した。そうすると駅前広場は 2000m² に限って、交通動線だけを考えれば

良いと思っている。今年度の検討の視点については、事務局でもう少し絞って欲しい。西口改札をJRに整備させるのは不可能だと思っている。成果を見えるようにして欲しい。

会長：ベンチの話は観光協会がやってくれると良いのでよろしくお願いします。私も国立に呼ばれるようになって、これまでの経緯も聞いている。当時は市民だけで議論してJRとは殆どやりとりしていなかったの、話が通らなかったと思う。JRは欠席しているという指摘があったが、私に関わるようになってから、市にはJRと折衝して頂いている。向こうも基本的な部分で市と合意ができれば会議に出るのは吝かではないと言っている。

委員：土地については、交換など方法論は検討してきたので、後はトップの判断だと思う。

会長：JRについては、JR東日本以外とも仕事をしてきたが、JRに対してはどの地域でもかなり頑張らないと話を通らない。差し支えない範囲でJRとの折衝について状況を説明して欲しい。

事務局：旧駅舎の復原の用地、北口駅前広場の整備、総研線の整備について協議をしているという状況である。

会長：今後のスケジュールについて説明して欲しい。

事務局：まち育て検討部会と交通検討部会を10月下旬から11月に1回、1月頃にもう1回開催したいと考えている。また、2～3月にはまちづくり会議を行って報告、確認を行いたい。今年度は交通シミュレーション、駅前空間のシミュレーションも考えている。

委員：まちづくりの議論を10年ほど続けており、積み重ねてきたものがあり、ある程度意見集約もできている。今後の議論もそれをベースに進めて欲しい。空論や議論のための議論ではなく、スピード感のある会議となることを期待したい。

交通検討部会におけるまちづくりを考える概ねの範囲が示されているが、以前より南側、東側をもう少し広げて議論すべきと話してきた。3・4・10号線ができると左折して市街地に入る車もいる。

会長：交通の検討範囲については、市と交通検討部会で協議してもらうことにする。

1点目については、10年以上やってきて動いていないということに対する実感だと思う。先ほども申し上げたが、条件さえ整えば北口駅前広場だけでも進めたいと思う。

委員：旧駅舎の扱いが小さくなっている気がして不安がある。保存の会もつくり、活動もしているので、実現したいと強く願っている。

委員：交通の社会実験について、市長さんの話しにもあった市民自由広場構想と接点があるものであれば実施しやすい。まちづくりに対する市民の関心をひくためにも必要ではないか。

3・4・10号線の1番大きなポイントは、南口駅前広場をできるだけ自由な歩行空間にしていくということにあると思う。ロータリー機能を残すという考えもあるが、国立のまちづくりの原点として忘れないようにしたい。

会長：社会実験には警視庁との折衝や費用もかかる。その点を踏まえて市の方で折衝してほしい。

以上